

小学校教科用図書調査研究資料

国 語

東 京 書 籍
教 育 出 版
光 村 図 書 出 版

令和5年度

中高・飯水地区小学校教科用図書採択研究協議会

種目（国語）

<p>採択基準</p> <p>発行者名</p>	<p>東京書籍（新編 新しい国語）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能の定着が図れるよう各領域で繰り返し扱い、必要に応じて教材を取り立てた構成にする等、工夫されている。 ・指導項目を焦点化し、それに即した具体的な言語活動を設け、課題解決的な活動を通して、思考力、判断力、表現力等が身に付くように工夫されている。 ・単元冒頭に「言葉の力」を示して何を学ぶのかという見通しをもたせ、単元末の「ふり返る」で学習の過程への評価を促すような文言を示し、児童が主体的に取り組めるよう工夫されている。
<p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 文章の長さ、分量、難易の程度については、児童の発達段階に応じて適切な内容や単元・教材数になるように配慮されている。 (2) 教科等横断的な内容や、SDGs といった今日的な課題に向き合えるような題材、児童が興味・関心をもてる題材を取り上げ、学習への関心・意欲を高めていけるように工夫されている。 (3) 「見通す」「取り組む」「ふり返る」という三段階の課題解決的な構成により、児童が学習の見通しをもち、単元で身に付けた力を確かめられるよう工夫されている。 (4) 「国語ノートの作り方」や、「デジタルノートの作り方」を扱い、児童が思考の言語化や整理によって自己の考えを形成することができるよう工夫されている。 (5) 1年生で特殊音節の理解を助ける「多層指導モデルMIM」の指導法を取り入れたり、幼保小の接続を意識した導入教材を取り入れたりするなど配慮がされている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 単元の配列が系統化されており、螺旋的・反復的に「言葉の力」を身に付けることができるよう工夫されている。 (2) 「ポイント」で、「言葉の力」に関わる重要な視点や観点を示唆する問いを投げかけ、言葉による見方・考え方を働かせながら、言語活動に取り組めるよう配慮されている。 (3) 「知識及び技能」に示される「言葉の特徴や使い方」に関わり、文法や語彙に特化した「言葉相談室」を設け、エラーモデルを示すことによって児童自らが課題をもって学習に取り組めるよう工夫されている。 (4) 学習指導要領の「知識及び技能」に記された事項に重点を置き、指導事項を系統的・段階的に取り立て、「知識及び技能」に関わる学習内容を習得できるよう工夫されている。 (5) さし絵、図表、写真、デジタル資料を随所に示すなど、学習展開に有効に活用できるよう配慮されている。 (6) 単元末の「ふり返る」に「言葉の力」を簡条書きと図解で簡潔に示し、視覚的に理解しやすい工夫がされている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに育成する資質・能力を「言葉の力」として明確化し、6年間を通して系統的に配列する工夫がされている。 ・学習展開の見通しをもてるような単元導入や、主体的に取り組めるような学習展開が工夫されている。

種目（国語）

<p>採択基準</p> <p>発行者名</p>	<p>教育出版（ひろがる言葉 小学国語）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元扉に学習の目標を示し、習得した学習内容を活用する教材を構成することで知識及び技能が定着するよう配慮されている。 ・日常生活に関連した題材や必要性を重視した教材を設定し、多様で活発な言語活動に取り組むことで思考力、判断力、表現力等が身に付くように工夫されている。 ・全学年にある「ひろがる言葉」では、学習内容を見通せるように、1年間で学ぶことを巻頭で示し、巻末で学んだことを生かすためのアウトプットする活動を設定し、身につけた言葉を他教科や実生活に生かしていこうという意欲を高める工夫がされている。
<p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 文章の長さ、分量、難易の程度については、児童の発達段階や指導時数に応じた配慮がされている。 (2) 他教科の学習との関連を図る教材選定がされているとともに、多様で活発な言語活動、児童にとって必要感のある課題を取り入れ、意欲的に取り組めるよう工夫されている。 (3) 「学習のてびき」では、4ステップ構造で示された、自ら課題を見つけ、それを解決するための学びの道筋と思考ツールや子どもの反応例等の例示により、見通しをもちながら、主体的に取り組むことができるよう工夫されている。 (4) ユニバーサルデザインフォントを取り入れ、文字の大きさを効果的に変えて用いるなど、視覚的な配慮がされている。 (5) 領域をテーマカラーで分けて示しているとともに、児童の思考力・想像力を支える図表や写真が適切に配置されている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 単元構成が全学年系統化されており、段階的な指導ができるように配慮されている。 (2) 各領域間の関連を視野に、「習得」と「活用」を螺旋的・反復的に繰り返して、学びを積み重ねられるように、学年間と学年を通した系統的な単元構想に配慮されている。 (3) 主体的・対話的な学びの実現を促すために「学習のてびき」で見通しをもつことができるようにするとともに、複数の領域を関連させて効果的に学習を図る「関連単元」を設定している。 (4) 各教材での学習ポイントや解説を、「ここが大事」で他の教材でも活用できる汎用性のある学習のポイントとしてまとめ、内容の理解と知識及び技能の定着を促すようにしている。 (5) 図表やメモ、対話モデルの吹き出し、デジタル教材など、考えの形成を助ける資料の他、手順や留意点を際立たせるデザインの工夫など、視覚的な配慮がされている。 (6) 単元ごとの「ふり返ろう」で、指導事項と言語活動の二つの観点で振り返られるよう工夫されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年の教科書を分冊にすることで、内容や付録を充実させるとともに、図書利用の仕方や紹介図書を多めにしている。 ・教科等横断的な学びを視野に、「ひろがる言葉」において領域ごとに単元と関連のあるSDGsのアイコンを載せている。

種目（国語）

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">光村図書出版（国語）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元、教材のねらいを明確にし、習得と活用を繰り返しながら知識及び技能が身に付けられるよう工夫されている。 ・単元を通して身に付けたい力を「たいせつ」、他教科や日常生活で生かす力を「いかそう」としてまとめ、思考力、判断力、表現力等が身に付くように工夫されている。 ・日常生活に関連したり、教科等横断的に資質・能力を伸ばしたりできるような話題・教材を選定し、児童の学習に対する意欲が高まるよう工夫されている。
<p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 文章の長さ、分量、難易の程度が、児童の発達段階に応じて考慮され、無理なく学習が進められるよう配慮されている。 (2) 日常生活に関連した内容や教科等横断的に資質・能力を伸ばすことができるような話題・教材が選定されており、児童の学習に対する意欲が高まるよう工夫されている。 (3) 「見通しをもと」を設定し、学習の道筋を示すことで、児童が見通しをもって主体的に学習を進められるよう工夫されている。 (4) 低学年では通常よりも太い文字にしたり、文字が小さい箇所などには、ユニバーサルデザインフォントを使用したり、分ち書きがされていたりして学年の発達に応じた配慮がされている。 (5) 教材の内容理解を助けるために、領域ごとの見出しに色分けされたアイコンが表示されており、児童がイメージを広げられるような絵や写真、グラフが適切に配置されるなどの工夫がされている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 単元の配列の系統化がなされており、全学年にわたり段階的な指導ができるよう工夫されている。 (2) 「国語の学びを見わたそう」に、前学年で学んだ既習事項の要点が示され、当該学年とのつながりや領域内の関連を確かめられるよう工夫されている。 (3) 三つの領域を関わらせた言語活動が、各学年で設定されており、単元末の「ひろげよう」により、言葉による見方・考え方を働かせながら言語活動に取り組めるよう配慮されている。 (4) 各単元の「ふりかえろう」で知識及び技能の振り返りを位置付けたり、学習活動に結び付く言葉を示したりすることで、知識及び技能が全学年系統的に各領域と関連付くよう工夫されている。 (5) 学習内容の理解を助け、児童のイメージを豊かに広げる挿絵や写真、デジタル教材を適所に掲載することで、学習展開に有効に活用できるよう配慮されている。 (6) 三つの観点に則した「ふりかえろう」が設けられ、まとめや評価の観点が明確になるよう、工夫されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元に「問いをもと・目標」が設けられており、児童が全体的に見通しをもって学べるよう工夫されている。 ・単元で付ける力や生活に生かす力を「たいせつ」「いかそう」にまとめ、思考力、判断力、表現力等が身に付くよう工夫されている。